

2020年6月23日(火)

老球の細道549号

新型コロナにおけるスポーツのガイドライン

会津バスケットボール協会 室井 富仁

新型コロナウイルスの影響のため日本のプロ野球が3か月遅れてようやく開幕した。しかし、レギュラーシーズンは試合数が短縮され、当分の間無観客となるという。サッカーJリーグも来週J2、J3から開幕になる。チーム内に感染者が出れば即試合中止が想定されている。いずれも厳しいシーズンとなりそうだ。Bリーグは予定通り開幕できるだろうか。

欧州サッカーでは、イングランド・プレミアリーグが自国のコロナ死者数が4万2千人を超えて、収束とは言えない状況の中でも強行開催し、色々な波紋を呼んでいる。

英国政府が後押しして強行が許された原因は経済効果にあるようだ。昨年のシーズンでイングランドサッカー界からの税収は約3080億円。サッカーがストップするとこれらの税収が減になるから大変なことになる。また、プレミアリーグのブライトンが1昨年シーズン中に地域にもたらした経済効果は年間284億円。数千人もの雇用につながり、経済優先もやむをえずということらしい。選手やチーム関係者も生活がかかっている。

ところで、インターハイや甲子園の高校野球が新型コロナウイルスのために中止になっていたが、学校や部活動も再開されるようになったので、あちこちでそれらに代わる代替大会が開催されるようになった。積極的に動いているのが高校野球である。甲子園での交流試合、各県独自の県大会などが連日のように新聞に報道されている。

バスケットボールの代替大会、試合はどうなっているのか。私が把握して範囲では、県レベルでは実施する、しないは全国的にまちまちである。福島県は今のところ、中学校も高校も実施しないという立場をとっているようだ。

JBAなどから練習、試合、大会などに関するガイドラインが発表されているが、ものすごく細かいところまで推奨されており、これを遵守しながら大会を運営するとなると、なかなか開催の決断をするのは容易なことではないだろう。

そんな折、わが会津地区のU-18、U-15部会は会津地区内だけで交流試合をやるという喜ぶべき決断がなされた。誰しものがリスクを恐れて責任回避もやむなしの中で、選手のため、バスケットボールのために英断してくれた関係者に敬意を表したい。

会津地区は現在のところ感染者はほとんどいない状況なので、いつまでもウイルスの不安に恐れてはいけぬ。もちろん安心して油断してもいけない。感染予防のガイドラインに沿いながらできる限りの予防策を講じて準備してもらいたい。

余談であるが、先日の朝日新聞のコラムに「スポーツの濃厚接触って？」が掲載されていた。スポーツにも一般的な感染防止の基準をあてはめるべきなのかということである。日本野球機構とJリーグの対策会議において、感染症専門チームから「サッカーのプレイは濃厚接触に当たらないのではないか」という見解が示されたそうだ。バスケットはどうか？